

## 第16回 作業療法ジャーナル研究助成

### 宮寺亮輔氏の「書字に困難さを抱える子どもの 協調運動機能の定量的評価」に決定



宮寺亮輔氏

過日、第16回 作業療法ジャーナル研究助成対象選考会が開かれ、宮寺亮輔氏の研究が選ばれた。宮寺氏の研究テーマは「書字に困難さを抱える子どもの協調運動機能の定量的評価」である。助成期間は3年間であり、助成金額は30万円である。研究経過については、次年の本誌に掲載する。

### 第16回研究助成を受けての言葉

宮 寺 亮 輔

(群馬医療福祉大学、作業療法士)

このたびは第16回の研究助成の対象に選出していただき、ありがとうございました。「作業療法ジャーナル」編集委員の皆様、研究計画や選考に携わっていただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

研究テーマは「書字に困難さを抱える子どもの協調運動機能の定量的評価」です。近年、全国の児童発達支援事業等の学習支援においてOTが活躍するようになりましたが、書字に困難さを抱える子どもの協調運動機能の特徴や支援のあり方に関しては統一した見解はなく、各対象児の支援前後の反応や学習成果等を効果の目安としているかと思います。またその一方で、児童発達支援事業の利用を経て普通学校に就学した後も、書字の困難さが学習活動に影響するとの指摘があります。

そこで、私が今まで関与してきました筆跡分析による上肢協調運動機能の評価方法を、書字動作の支援に応用することを思いつきました。書字動作の過程を可視化できれば、対象児への効果的な学習支援だけでなく、介入効果指標への応用や、対象児が抱える課題に対する支援者の直感理解にもつながると考えました。本研究は、スマートペンの筆跡に着目し、視線と書字姿勢の同時解析から、書字に困難さを抱える子どもの協調運動機能の特徴を明らかにしたいと思っています。

本研究が今後の児童発達支援事業等での作業療法の可能性を少しでも広げることにつながるよう、努力していきます。どうぞよろしくお願いいたします。